

事業所の概要表

(平成 29年 10月 1日現在)

事業所名	グループホーム・コミュニティーハウス北条					
法人名	有限会社コミュニティーハウス					
所在地	愛媛県松山市北条588番地3					
電話番号	(089)993-9390					
FAX番号	(089)993-9390					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成 14 年 3 月 26 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て (1・2) 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	17 名 (男性 5 人 女性 12 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	7 名	要介護2	2 名
	要介護3	3 名	要介護4	2 名	要介護5	3 名
職員の勤続年数	1年未満	3 人	1~3年未満	3 人	3~5年未満	5 人
	5~10年未満	2 人	10年以上	2 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 4 人			
	その他 (社会福祉士・精神保健福祉士・ヘルパー2級)					
看護職員の配置	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 直接雇用 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	田辺医院・内田クリニック・北条病院・かとう歯科					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 22 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	35,000 円					
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円					
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有					
食材料費	1日当たり	1,200 円	朝食:	円	昼食:	円
	おやつ:	0 円	夕食:	円		
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()					
その他の費用	水道光熱費	300/日	円			
	共益費	5000/月	円			
	おむつ代	実費	円			
	理美容代	自己負担	円			

家族会の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (開催回数: 1 回) 過去1年間		
広報紙等の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (発行回数: 回) 過去1年間		
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 過去1年間	
	参加メンバーにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者	<input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	<input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input type="checkbox"/> 利用者	<input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input type="checkbox"/> 家族等
	<input type="checkbox"/> その他 ()		

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

- .その人らしい暮らしを支える
 - (1) ケアマネジメント
 - (2) 日々の支援
 - (3) 生活環境づくり
 - (4) 健康を維持するための支援
- .家族との支え合い
- .地域との支え合い
- .より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【外部評価実施評価機関】 評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年10月25日

【アンケート協力数】 評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	7	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	5		

アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(= 1 ○ = 2 = 3 × = 4)

事業所記入

事業所番号	3871100230
事業所名	グループホーム・コミュニティーハウス北条
(ユニット名)	1階・2階 合同
記入者(管理者)	
氏名	久保田 達也
自己評価作成日	29 年 10月 1日

<p>【事業所理念】※事業所記入</p> <p>私たちは、利用者にとって良きパートナーとなり、その方個人個人の人生を振り返り尊重し、共に、笑い、泣き、怒り、悲しめる存在である様に、利用者と共に生きていきます。私たちは、利用者の自立性を大切に地域と共に利用者が当たり前に暮らせる社会づくりに取り組んでいます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入</p> <p>○地域の行事等に積極的に参加する。(参加を試みたが上手く参加できない事も多く、現在も課題として取り組んでいる。)</p> <p>○事業所の行事等を地域の方に知ってもらい参加頂ける様努める。(常に地域の方に案内している。徐々に参加が増えている。)</p> <p>○家族会へ積極的に協力して頂く。(案内はしているが中々都合が合わない。)</p> <p>○場合によっては警察・消防にも参加頂けるような体制作りをする。(現在も課題として取り組んでいる。)</p> <p>○避難訓練を繰り返し実施する。(適宜行っている。)</p> <p>○火災だけでなく地震などにも対応できるような避難訓練を行う。(現在も課題として取り組んでいる。)</p> <p>○地域の災害訓練に積極的に参加する。(地区の防災訓練に参加した。)</p> <p>○利用者について色々な情報を取り入れる。(出てくる。引き続き継続している。)</p> <p>○何を望んでいるのかを知る為に深く関わりを持つ。(出来るだけ関わるようにしている。)</p> <p>○その人らしく生活出来るよう優先順位を考えて計画を立てる。(らしさを考えて実行している。)</p> <p>○遠くから近くまでその方に合わせ、希望に応じられるよう対応する。(出来るだけ対応している。)</p> <p>○日々の会話を大切にし、本人の気持ちを第一に考え、読み取れるような関係作りをする。(常に真剣に傾聴している。)</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所勉強会で、ミキサー食やトロミ入りお茶などを試食して、利用者が食べる楽しみが保てるように食事の提供について話し合っている。</p> <p>計画を立てて、お花見やつつじ見物、海釣り、外食などに出かけられるよう支援している。利用者希望を聞き、その日に道の駅など、近辺をドライブすることもある。</p> <p>今月末には、利用者2人が職員と一緒に観劇に行くことになっていた。</p> <p>畑やプランターで野菜や花を育て、利用者が外に出て作業する機会をつくっており、調査訪問日には、畑のことが気になる利用者や、他数名を誘って草引きに外に出る様子が見られた。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
I. その人らしい暮らしを支える										
(1) ケアマネジメント										
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	○ 日常の会話の中からも、その方の思いや希望を伺い情報を収集し、カンファレンスや職員会で意見交換、周知するようにしている。	◎			○ 日々の中で把握した利用者の思いや希望などは、アセスメントシートの希望を記入する欄にまとめ、介護計画を見直す3ヶ月ごとに更新している。	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	△ カンファレンスや職員会で、その方の人となりを話すように心がけており、それを基にみんなで検討している。					
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	○ ご家族や知人、友人と入居前、入居後変わりなく話しておりフェイスシートや申し送りに記載するようにしている。					
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	△ 気付いたことや知ったこと等を申し送りノートに記入するようにしている。					
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないよう留意している。	△	△ カンファレンスや職員会で皆の意見を取り入れることにより見落としが無いように努めている。					
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	○ 何らかの機会を見つけては伺うようにしており、フェイスシートや申し送りノートに記載している。			△	△ 入居時、家族から聞き取り作成したフェイスシートや入居前に利用していた介護事業所からの情報提供書類で把握しているが、馴染みの暮らし方やこだわり、大切にしてきたことなどについての情報は少ない。	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなど等)等の現状の把握に努めている。	◎	◎ 常に考えて把握に努めると共に、経過記録に記載している。					
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	○ 経過記録または申し送りにより、前後の場面も含めて、職員全体で考え情報を共有出来ている。					
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	○ 経過記録または申し送りにより、職員全体で考え情報は共有出来ている。					
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	○ 時間経過での記録を記載していき、それによって職員全員が、その方の生活リズムや変化を把握するように努めている。					
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	◎ カンファレンスや職員会で本人はどう感じているか、どのような思いを持っているかから検討を始めるようにしている。			◎	◎ カンファレンス時に、本人の望みを中心にして話し合い記録している。	
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	△ 常に考えるようにしており、検討もしているが望むものを支援できているかは疑問も残り課題でもある。					
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	△ 検討し課題が浮き上がるように努めている。					
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	△ カンファレンスで検討しているが内容については今後の課題でもある。					
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	△ 協力医や職員、本人様と適宜話し合いをしているが家族様と相談や意見交換が出来ていないと感じられる。	○		△	△ 計画作成後に、家族に提示して意見を聞いています。意見が出れば計画に採り入れているが、意見が出ることは少ない。	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	○ 状態が悪化してきても、その人らしさを考えてのケアを心がけており、生活リズムも出来るだけ崩さぬように支援している。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	△ 体制作りの努力を行っているが、現状においては出来ないことも多い。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	○ 全利用者の介護計画を職員が閲覧できる所に保管しており、皆が確認を行うようにしている。			△	△ 利用者別に介護計画をまとめて一冊のファイルに綴じられているが、介護計画を日々確認したり共有したりできるように工夫はないだろうか。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	○ 経過記録に実施欄があり毎日記録している。			○	○ 日々の個別介護記録に、ケアプラン実施状況欄を設けており、計画内容の1項目について「できた・できなかった」と文字で記入している。それをもとにして、3ヶ月に1回のカンファレンス時に、その結果どうだったかを話し合い状況確認を行っている。	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	○ 実施欄に個別に記載するようにしている。			△	△ 日々の個別介護記録には、生活の中の言葉・行動・エピソードなどの記録はあるが、介護計画に基づいた記録という点からは情報量が少ない。	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	△ 申し送りノートに適宜記録している。			○	○ 介護計画内容についての気づきは、ケアプラン評価表に記録している。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	計画期間中にカンファレンスを開き、見直しを行っている。			◎	計画作成担当者が責任を持って期間を管理しており、カンファレンス前に見直しの該当者を職員に周知している。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	カンファレンスで確認するようにしている。			△	毎月行うカンファレンス時に、介護計画見直し間近の利用者についての、現状確認を行っている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	変化が生じた時等、見直しが遅れる場合がある。				○	心身状態悪化の場合は、見直しを行うことになっているが、この1年間は事例がないようだ。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	必要時には職員を招集し話し合いを行うようにしている。			○	月1回、定期的に職員会を行っている。たとえば、事故発生時には、その日の勤務者で話し合い、事故報告書を作成している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	会議は事務所でされており、職員が車座に座り率直な気持ちや思い、意見を表せるように雰囲気作りを行い、他の人の意見を否定しないことを約束としている。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	開催日を最終木曜と決めており予定が立てやすいようにしている。時間は日動終了後の時間からとしており休日者も含め超過勤務手当を支給している。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	毎回、議事録を作成しており、出勤簿の横に議事録を置いて閲覧してもらうようにしている。				△	会議記録は、出勤簿の横に設置して、閲覧しやすいように工夫しているが、閲覧したかどうかを確認するしくみはついていない。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートに記載しており、職員は出勤時に確認し確認のサインをするようにしている。			○	申し送りノートに記入して、確認後にサインするしくみをつくっている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝夕の引継ぎを行い申し送り事項を日誌に記載するようにしている。継続的に申し送りたい内容は申し送りノートに記載するようにしている。		○			
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	一日のスケジュールは特にきめていない。その日の、その時の雰囲気や大切にしておき、その雰囲気や合わせた誘いがけや楽しみを見つけるようにしている。					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	様々な場面において利用者様に選んでも頂けるような声掛けをしている。			◎	昼食時には、職員がカレーに添える福神漬を利用者一人ひとりに、いる・いない、欲しい量、どこに入れるかを確認している場面がみられた。一方のユニットでは、サラダと柿を盛った皿をテーブルに置き、利用者が自分で取り分けができるような場面をつくっていた。	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	その人の表せる表現に合わせた声掛け、アクションを行い、その反応を見たり聞いたりしてから支援するようにしている。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	その人の表せる表現に合わせた声掛け、アクションを行い、その反応を見たり聞いたりしてから支援するようにしている。					
		e	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	職員はその日の自分の気分による接し方に違いがないよう、いつでも明るく接するよう心がけている。				◎	利用者に「ありがとう」「よかったね」と言葉をかける場面が度々みられた。職員と利用者とのユーモアある会話の場面がよくあり、楽しい雰囲気づくりを心がけている。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	色々な記録やミーティングで反応の違いや「こうじゃないか」を大切に情報共有し支援するよう努めている。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会や研修を通じて人権、尊厳について学び、職員間でも注意し合えるようにしている。	◎	◎	◎	法人内研修や事業所勉強会で学んでおり、利用者に接する前には言葉をかけるなどする場面がよくみられた。職員は、丁寧な言葉と態度で利用者にかかわっていた。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声をかけないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	慣れが配慮を欠いてしまう場面がある。皆が意識して職員同士でも「それは」と言い合えるようにしている。課題は残っているように感じる。			○	利用者が下階する際や、シルバーカーを押して歩く後をさりげなく付いて行き、本人の行動を見守っている様子が見られた。	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレにはバスタオルを用意しており背もたれやひざ掛けに使用し羞恥心へ配慮している。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	必ずノックするように指導しており、職員も理解して実践している。また不在時には「入る」ことを伝えるようにしている。			◎	管理者は、入室前に本人に許可を得ており、職員も在・不在に関わらずノックをしていた。	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員会や研修にて理解し、遵守できている。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者様に「ありがとう」と伝える言葉を大切にしている。					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	共同生活を大切にしており、皆それぞれに何らかの役割があることを理解している。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらった場面をつくる等)	◎	共同生活を送ることはトラブルになる事も多々あるが、その場面や内容に応じて介入をしたり様子を見たりしながら、最後にはみんなて笑えるようにしている。			○	昼食時、利用者の一人が急須で利用者全員に、お茶を注いで配っている場面があり、職員がそれとなくサポートしていた。	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	必要時には必ず間に入り対応し、後に残らないよう努めている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	家族様にお伺いした内容や、ケアマネからの情報提供などを記録、確認している。				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居前や面会時などに、雑談も交えてお話を伺いしながら情報収集につとめている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	雑談の中から以前よく行っていた場所などを伺いすると、お連れ出来るように努めている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時間も特に設けず「いつでもどうぞ」とお伝えし、面会時にはご本人と同じように嬉しいことをお伝えできるようにしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	その日の、その時の雰囲気や天候を大切にしており、その雰囲気に合わせた誘いがけや楽しみを見つけているようにしている。	◎		◎	計画を立てて、お花見やつつじ見物、海釣り、外食などに出かけられるよう支援している。利用者によって希望を聞き、その日に道の駅など、近辺をドライブすることもある。今月末には、利用者2人が職員と一緒に観劇に行くことになっていた。畑やプランターで野菜や花を育て、利用者が外に出て作業する機会をつくっており、調査訪問日には、畑のことが気になる利用者も、他数名を誘って草引きに外に出る様子がみられた。 ○ 系列施設からリフト車を借りて、一緒に出かけられるように支援している。リクライニング車イスで庭にいたり、近くを一緒に散歩したりできるような支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力が得ながら、外出支援をすすめている。	×	これからの課題としている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	○	天候の良い日など、体調などに合わせ出来るだけ散歩や日光浴をしている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	お花見は家族様も参加して頂いている。時々はおやつを持ってドライブに出かけている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員会や勉強会、ミーティングで理解に努めている。				自立度の高い利用者には、自分の洗濯物を取り込み、たたむことや、寝る前の入浴など見守りして支援している。 利用者個々のアセスメントシートには、生活の場面毎に、できること、できそうなこと、本人の意向などについても記録して、できることを継続できるような支援に取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	止めないことを第一に考えての支援が行えるように心がけている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場づくり、環境づくり等)	○	できそうなどころの見極めを大切にしており、職員同士でも「ここまでは出来るよ」「こうしたら出来るよ」と伝えあっている。		○	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	つつい出番を奪う場面もあるが、常に意識するよう努めている。				家事や野菜、花を育てるなど、生活の中で役割や出番をつくる取り組みを行っている。 季節の行事や誕生会、カラオケなど、楽しみや喜びを感じることができる取り組みを行っている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	役割や出番等への誘いがけや、設定を行い、自然に身体や心が動くように支援するよう努めている。	○	△	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	現状ではできていない。課題である。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	女性であれば、カチューシャや髪止め・帽子など、ヘアスタイルを意識したおしゃれを日常的に楽しめるように工夫している。				食事前にさりげなく目やにを拭いたり、食事中は口元を拭いたりして、さりげなくカバーしている様子がみられた。 整容は行っているが、訪問美容師の都合があるようで、髪の毛が伸びているような利用者が複数いた。 ○ 居室で過ごす事が多くなった利用者も、朝・夕の更衣を支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	馴染みの洋服や持ち物は、その人らしさと捉えるようにしており、特に大切にしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	どうすれば、どこまですれば自己決定ができるか、また、それをどう表現されるかを考えるように努めている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	各利用者様の「お気に入り」は把握している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたり、さげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	指摘することが無いように言葉を選んでの支援に努めている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	馴染みの散髪屋さんに行かれる利用者様もおられるが、ほとんどの利用者様は行けていない。概ね1か月に1回美容師に訪問して頂いており希望者はホームで散髪している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	らしさを大切にするのに軽度、重度は関係ない。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	勉強会や職員会で理解出来ていると共に、常に話し合いをしている。				業者が立てた献立で食材が届き、職員が交代で調理している。 調査訪問時、台所で職員と一緒に調理する利用者や、テーブル席で野菜を切ったりする利用者の様子がみられた。 食後は、食器洗いや食器拭きを一緒に行っていた。 誕生日の昼食は、本人の希望を反映した献立で祝っている。 普段は決まった献立であるため、苦手な魚などの時には、卵焼きをつくるなどで代替している。 庭でバーベキューや芋煮、餅つきなど行っている。 茶わんや湯飲み、箸などは、家族が準備したものを使用している。 食事のサポートを行いながら、同じものを一緒に食べている。 居室で横になっている利用者に管理者が「カレーの匂いする？」と言葉がけをする場面がみられた。 献立をホワイトボードに書いている。 事業所勉強会で、ミキサー食やトロミ入りお茶などを試食して、利用者が食べる楽しみが保てるように食事の提供について話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	献立、食材発注・管理は業者に委託しているが、調理は職員が行っている。ともに…まではいかないのが現状である。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	調理や盛り付け、準備、後片付けなどにおいては、利用者の力の発揮場面と出来ていない。時々のお手伝いはお願いし協力いただいている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	好むものや苦手なもの、アレルギーの有無についての把握は出来ている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	月に一度は給食会議を開いており、季節の物や旬が感じられる献立と工夫している。また利用者様の声を取り入れるようにしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	咀嚼や嚥下機能、身体機能などに合わせた形態としており、形態の変更の場合には職員で話し合いを持ち決定としている。一人の意見では変更していない。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	茶わんや湯飲み、箸は個人専用の物を用意しており、使いやすいさも考慮して選んでいる。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者とおかずの交換や、味について等の会話を楽しみながら、流れてのサポートを心がけている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理の際には作っているものを当ててもらいなどの声掛けや味付けのアドバイスをもらったり、調理するアビールを通して食への興味を引くように努めている。		○	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通して確保できるようにしている。	○	献立作成の際のカロリー計算をしてもいい、摂取量の記録も行いながら必要摂取量ができていくかの確認をしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	日々の記録を取りながら、低下してきた時期であったり、いつもの違いを確認できるようにしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	月に一度の会議において話し合い、偏りや嗜好について確認をしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理器具の洗浄や高温での乾燥などに気を付けながら、調理器具に関しては適宜消毒を行っている。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	職員会や研修で理解していると共に、職員同士声掛けをおこなっている。				口腔ケアの際の目視にとどまっている。 月1回、調理方法や旬の食材、利用者の希望の献立などを口頭で話し合い、業者に要望として伝えている。 朝・夕は支援しているが、昼食後に、歯磨きを行う利用者の姿はみられなかった。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの際などに口腔内の確認を行うようにしており、必要時には歯科医の往診を依頼している。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問診療の際、指導をうけている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	食後は必ず口腔ケアをすることとしており、義歯も洗浄している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	歯磨きやうがいができる利用者様は積極的に行っている。出来ない方は介助にて出来る事をして頂いている。			△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	△	歯科医の訪問診療でおこなっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	勉強会や職員会で理解に努めている。また、忘れないために、意識するために話し合いをしている。				トイレで用を足すことを介護計画の目標に挙げて支援に取り組んでいるケースがある。カンファレンス時にパッド使用について話し合ったケースがある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会や職員会で理解に努めている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を参考にしながらパターンの把握に努めており、排便の兆候も意識してみるようにしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄チェック表を確認しながら、トイレでの排泄についての可能性を検討している。また、現状の支援が適切かどうか確認している。	○	○		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄が困難な原因がケアにないかの視点も大切にしながら、少しでも改善についての検討が行えるよう努めている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を参考に、時間的な誘導を行ったり、早めの声掛けに努めている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	いろいろなことを試してみたが、それでもうまくいかない場合には、そのことを家族様に伝え、希望も伺いながら、本人様の生活スタイルにあったものを選択するようにしている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	状態や必要に合わせての使い分けを行うが、それが利用者様の混乱とならぬように努めている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取をしっかりと行う事を心がけている。できるだけトイレに座っていただき、いきんでいただいたり、腹部マッサージを適宜行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	24時間の循環風呂になっており、利用者様の希望するタイミング・時間に入浴できるよう支援している。	◎	◎		循環式24時間風呂を設置しており、利用者の希望するタイミングで支援することに取り組んでいる。自立度の高い人は、就寝前に毎日入る人が複数おり、見守りなどして支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだり気分が入浴できるよう支援している。	◎	家庭用の個浴でのんびりと入浴出来ている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人の出来ることはして頂き、難しい所を介助させて頂いている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いをせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	本人の入りたい時を知るため細目に声掛けを行い、入りたいと思えるタイミングでの入浴を支援することで気持ち良い入浴に近づけるように努めている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	声掛けの前に睡眠時間やその時の体調を確認し、入浴後も水分補給に留意した見守りを行っている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤者が個々の経過記録に就寝時間、起床時間を記載しており、申し送りやミーティングで話し合い、職員全体で把握できるようにしている。				主治医に日常生活の様子を伝えて減薬につなげたケースがある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	眠れない原因を探ると共に、昼夜逆転傾向がうかがえる場合などは、日中寄り添い一緒に楽しむ夜間の安眠を促せる様に取り組んでいる。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	眠れない＝薬では無い。眠れない原因が何か十分に検討して支援をした上で、それでも眠れない場合は看護師、医師に相談している。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人の希望を伺い対応している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族様にあらかじめ都合をお聞きし、都合の良い日や時間に電話させてもらっている。				/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	その場合は少ないが、一緒に手紙を書いたりさせて頂いている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	×	電話がかかってきた場合には本人様に子機をお渡しし、お話をさせて頂いている。電話を掛けたいと訴えがあった場合には、家族様の都合を考慮して電話を掛けさせて頂いている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	必ず本人様にお渡しし、要望があった場合には音読したりしている。また希望時には返事が出せるように準備はしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	×	お願いはしているが、家族様の事情や都合が合わないのが現状。今後の課題である。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	勉強会で理解出来ていると思うが、所持(自己管理)する事が難しいのが現状である。外出した際等には現金をお渡しして、買物をして頂いたりしている。				/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	利用者様と一緒にスーパー等に出かけ嗜好品等好きな物を買っている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	行っていない。今後の課題である。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	一緒に買い物に出かける時は、本人様にお金をお渡しし、好きなものを選び、その支払いをしていただくようにしている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	月々のお小遣い制にておられる方もおり、欲しいものがある場合は計画的に使用している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人、家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	預り金規程により、方法の説明、同意を得るようにしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	利用者の家族の方の支援にも心がけ、要望に応えられるよう取り組んでいる。	◎		◎	配偶者のことが気がかりな人について、家族と相談して一緒に食事をしたり、居室に泊まったりできるように支援したケースがある。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りやすいように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	常に玄関は解放しており、外を歩く人も中が見えるようになっている。また、花や野菜を育て、生活している場所(家)だと感じて頂ける様に工夫し、分かりやすく入りやすく心がけている。	◎	○	◎	玄関前の庭には、色とりどりの花のプランターを並べ、テーブルや椅子、ベンチを配置している。きれいに掃除をしている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。)	○	玄関周りには利用者様と一緒にお花を育てている。壁には利用者様の作品を飾ったり、季節感のあるものを飾ったりしている。	◎	○	◎	居間や廊下に、ハロウィンや紅葉の飾りをして、「秋」と書いた利用者の習字作品を掲示していた。所々に、ソファや椅子を置き、くつろげる空間をつくっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日清掃しており、利用者様も出来る所は一緒にして頂いている。			○	汚物などは、外に出すようにして、室内は嫌な臭いや不快な音はなく清潔を保っている。テレビを点けており、誰も見ていない時は、音量を下げていた。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	隣に畑があり利用者様と一緒に草引きしたり、収穫したりして、肌でも舌でも季節を感じてもらえるよう努めている。			◎	新聞を回し読みしている人、居間に続くベランダから自分の洗濯物を取り入れる人、畑が気になる人、テレビに見入る人などの姿がみられた。居間にカラオケの器械が設置してあった。神棚があり、手を合わせる利用者もいる。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	建物も狭いため、どこにおられても人の気配を感じる事ができる。個室では独りになることもでき、それも大切にしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	トイレの開閉や脱衣所などの開閉は意識もって行っている。また、トイレ内にもひざ掛けなどを準備しプライバシーにも配慮するよう努めている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		家具の持ち込みは自由としている。配置等は本人様の希望通りになっている。テレビなど使い慣れたものを持ち込まれている。また、写真は貼っている方もおられる。	◎		○	自宅で使い慣れた鏡台やお気に入りのぬいぐるみを持ち込んでいる居室がみられた。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレが3か所あり、ご自分の好きな所を使ってもらっている。できない事やわからない事はさりげなく支援させていただくようにしている。			○	ユニットに3ヶ所あるトイレには、「御手洗い」と表示した同じ形の表札を掛けていた。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	認識の間違いは起こり得るものであり、それを不安や混乱に至らせないための声掛けや対応に心がけている。その後何故かを考え環境整備や物等に対する対応するようになっている。				
		c	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞、雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	利用者様が動かされた時の反応で、何だろを準備するようにしている。また、新聞やテレビのリモコン等は机においてあり誰でも触れる、読めるようにしている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	居室はもちろん、玄関も鍵はかけていない。天気の良い日には玄関扉は開放している。	◎	◎	◎	季節を問わず天気の良い日は玄関を解放している。4月の法人内研修時に、拘束することの弊害などを勉強している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施設を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	外出傾向のある利用者様については、家族様と話し合い、そのリスクと対応を説明し、鍵などの抑制をしない事に対する同意を頂いている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	職員は場の様子(景色)に慣れてしまわないよう、常日頃から指導している。職員も利用者様の所在と何をしておられるかを常に意識し把握するよう努めている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	病歴等については、フェースシートを繰り返し確認している。受診・往診の際は内容を記録しており、いつでも確認できるようにしている。				/
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	「いつもと違う」が分かるよう、職員は日頃から利用者様を観察するよう努めている。些細なことでも記録に残したり、申し送りや伝えるようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	訪問看護と契約しており24時間連絡、相談出来る。またかかりつけの病院にもいつでも相談が可能な体制となっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	本人様、家族様の希望をお伺いし、協力医の他に受診を希望される場合等の協力方法を説明し、必要な受療ができるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人様、家族様の希望に応じて医療機関との連携が図れる様に支援を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診記録を記載しており、必要に応じ家族様へ連絡し受診結果の報告を行い、家族様の意向を確認するようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	サマリーを作成したり、必要に応じて口頭でも情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	適宜病院に行き情報収集や情報提供をしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	日頃から連携が図れるように情報提供を行ったり、受けたりとできる関係性を大切にしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	毎週火曜には往診があり、水曜日には訪問看護が来所しており、その都度相談ができています。また、いつでも相談できる体制をとっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間相談出来る。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタルサインを測定、記録しており、変化がみられた場合等には、申し送りにより職員への周知を図り、必要があれば受診を適宜行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	受診結果を記録に残し、職員間での情報の共有を行っている。また、薬情をファイルし常に確認するようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬情をファイルしており常に確認出来ている。係が一回毎に配薬しており飲み忘れがないように確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	経過記録や申し送り、排泄チェック表などで確認出来ている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	状態や変化等に関しては経過記録に記載しており、常に確認している。変化があればすぐに医師、看護師に連絡できるような体制を作っている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化や看取りに対しその都度話し合いをし、本人、家族様の意向を確認している。				看取りの介護計画を作成して、家族・訪問看護師・かかりつけ医・職員などで方針を共有している。 「最期まで口から」という方針の介護計画を立てているケースがみられた。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	全ての人と話し合い、方針を共有している。	○	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	その時々職員の思いを聞き、その力量を測るよう努め、現状できる事を説明するようにしている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	ホームで可能なことの説明をきちんとおこなえるよう努め、理解を得られるようにしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	訪問診療、訪問看護に状況を伝えるとともに、現状と今後起こり得る事を家族様にも報告・相談させていただき検討・準備している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	出来るだけ本人様や家族様の立場になるよう努め、支援するようにしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会や職員会で理解出来ていると思うが、繰り返し学ぶようにしていきたい。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染者が出た場合の対応や、汚染物の処理の仕方など勉強会で学んでいる。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	情報には目を通し、可能なものは閲覧するようにしている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	学校や職員の情報なども参考にし随時対応している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗いや消毒、その方法にたいしても徹底している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	来所の際は近況報告をしている。行事等は家族様に案内状を出したり口頭でお願いさせて頂いている。				外出や行事の際は、面会時や電話で案内している。家族は、花見や納涼祭に参加している。 月1回、管理者が日々の様子を簡潔に書いた手紙を請求書に沿って送付している。 年4回、行事や誕生会の様子を、写真にコメントを付けた風早のたよりを作成し、閲覧できるように玄関に置いている。 家族が、運営上の事柄や出来事について報告を受けようという機会はほとんどない。 家族来訪時には、声をかけて様子報告を行っている。今回、家族アンケートの返答数が少なめであり、今後さらに、意見や希望を気軽に伝えたり、事業所へ足を運んでもらえるように家族へのアプローチに工夫してはどうか。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(茶やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	湯茶の自由利用は出来ないが、常に玄関を解放しておりいつでも入れる雰囲気を作っている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	外出や行事の際は案内をするようにしている。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(たよりの発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	3ヶ月に1回、風早のおたよりを作成しているが、送付には至っていない。送付については今後の課題としている。		○		
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	家族様とお話する際には、こちら側からの報告や連絡にとどまらぬように努め、「何か気になる事はありませんか」とお伺いするようにしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	本人様が直接伝えられない家族様の思いをお伺いする事や感じる事が良くあり、それらを家族様にお伝えできるように努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	家族会の開催時には運営上の事柄の報告も行うようにし、協力をお願いしている。		○	×	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族会、行事等の案内はさせて頂いているが、中々参加者がいないのが現状である。課題としている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	新たなリスクが感じられた場合には、その解決方法を家族様にもお伝えし、対応策を決めるようにしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	△	来訪時には近況報告やお話をさせて頂いているが、定期的な連絡を行っていない。			△	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約書に沿っての説明と、ホームの考え方や対応方法について説明を行い、理解と納得を得るようにしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居においても契約時に説明させて頂いており、退居の希望がある場合には、その希望に応じれる様に様々な支援を行うようにしている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に説明させて頂いていただき理解され同意いただいている。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	定期的な地域総会に出席し、目的など理解して頂けるように努めている。		○		町内会に加入しており、年1回の総会に参加している。 納涼祭は、チランを作って地域の人にも案内し参加がある。 地域の運動会には、利用者数名と職員で見物に出かけた。 幼稚園児の訪問があり、歌や肩たたき、握手でふれ合いながら交流した。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	町内会に出席している。ホームでは地域の方々との日常的な挨拶をするよう努めている。		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域のボランティアの方が来所してくださり、利用者様も楽しみにされ喜んでおられる。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	ご近所の方等、よくお話しに来てくれている。また、納涼祭にも遊びに来ていただいた。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶をしっかりすることを職員はこころがけている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	納涼祭や敬老会に来て頂いている。機会があればもっと増やしていきたい。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	現状として地域資源の活用はあまりできていない。今後は地域資源の活用を図ってきたい。				
		h	地域の人たちや周辺地域の施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を深げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	体験学習を受け入れたり、幼稚園や小学校からの来所もあり、そんな機会を活用してホームのことを理解して頂けるようまた理解が深まる様努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	家族様に案内しているが中々参加には至らない。地域の代表者は積極的に参加していただいている。	○		△	利用者は参加していない。家族には、来訪時や電話で案内しているが、この1年間は、参加につながっていない。地域からは、区長や組長、民生委員などが参加している。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実況、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	運営推進会議では利用者様の状況や行事報告・予定を報告している。外部評価の結果も報告させていた。			△	行事については、写真を見てもらいながら報告している。評価結果について報告しているようだ。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	毎回意見や感想を頂いており、その状況や結果を報告させて頂いている。			○	○	水害・土砂災害を含む避難訓練の実施について市からの指導があり、訓練を実施して、課題について報告した。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加しやすい日程については協議しながら取り決めているが、テーマにそっての参加メンバーを増やすなどは出来ていない。			○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	1階2階の入り口に議事録を設置しており、誰でも閲覧可能となっている。					
IV.より良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念に沿って日々邁進していると感じている。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	伝えられているかどうか…判断がしにくいのが努めている。	○	×			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	ケアの実際に関しては把握に努め、其々に応じた助言や指導を行っているが、外部研修の機会をもっと増やしていきたい。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月の職員会の後に勉強会を行っている。また、法人内の研修会にも参加し、スキルアップが図れるように努めている。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	向上心が湧くよう、いろいろな取り組みを行っている。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	現状できていない。					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	定期的に職員と面談する機会を設けてくれており、管理者からの報告によって適時必要な対応をしてくれている。	◎	○	◎		法人代表者は、年1回職員と面談の機会を持っている。法人内のフットサル部や、新年会など系列事業所の職員が交流する機会をつくっている。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	勉強会を開催して各職員の考えを意見交換し、学ぶ機会をもっている。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	勉強会やミーティング、職員会で話し合っている。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切なケアが発見された場合は、発見者は管理者に報告する義務があり、管理者は代表者への報告、必要に応じ松山市へ報告することとしている。			○		職員は、不適切なケアを発見した場合は、まずユニットリーダーに伝え、ユニットリーダーが管理者に報告することを認識していた。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	現場での様子を見ても適宜機会を設けており、必要時には面談を行うようにしている。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	禁止対象となる行為ややむを得ない場合の理解は研修を通じ理解しており、なぜ禁止なのかやむを得ない場合の対応方法も学んでいる。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	事例を挙げ勉強会やミーティング、職員会で話し合っている。					
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	拘束、施設等の要望は受け入れない、対応方法について考え示すようにし、理解を頂くようお願いしている。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	勉強会で理解出来ていると思う。現在は後見人制度を利用されている利用者様が少ないため職員はなかなか身近に感じる事が出来ない。繰り返し勉強会を継続したい。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、ハインレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	事例がないため相談はできていないが、今後は勉強会を増やしていきたい。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるように、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	今後は連携が図れるように努力していきたい。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	事故発生時のマニュアルは作成しており、その際には、管理者や訪問看護に緊急連絡がとれるようにしており、職員に周知している。				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	法人内で行っている救急救命の研修に参加したり、医療法人の方をお願いして救命法を学んだりして、その時の対応方法を学ぶようにしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	事故が発生した場合は早急に今後の対策を行い、事故再発防止に努めている。ヒヤリハットに関しては職員の意識を高めると共に、気付きを増やせるように今後の課題でもある。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	その方のリスクについて、怖いと感じたら他の人に伝えようを意識するようにしており、それらを検討するように努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルの作成を行っており、それを基に話し合い、対応方法等について検討している。				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	事例がほとんどなく、対応記録もないが、必要な際にはマニュアルに沿って対応する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	対応事例が無いが、その際には対応策の提示や経過を記録し、解決に至る様に努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	意見箱の設置などをしていて、事業所の相談窓口は管理者が担当している。			×	利用者が運営について意見を伝えられる機会は、つくっていない。 運営推進会議への参加に取り組んでほしい。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族会やアンケートの実施等で意見や苦情を頂ける様に努めている。	○		△	4月の家族会総会の際には、全家族に文章で案内したが、参加者は1人にとどまった。 運営推進会議や家族会総会の案内の方法などについて工夫ができればだろうか。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	苦情対応についての書面を掲示しており、その中にも公的な窓口も記載している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	代表者は頻りに現場に入り、利用者様や職員と交流の機会を作っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者は必要と思われる際に適宜職員と面談を持ち個人の意見を聞き、またミーティングや職員会では全体の中での個人の意見も聞くよう努めている。			◎	3月の事業所勉強会では、テーマを「管理者への質問コーナー」として、職員の疑問や悩みなどを聞き取り、今後の取り組みに活かせるよう話し合った。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回はサービス評価の意義を話し合う機会を設け、皆で自己評価を行い、自己点検を行っている。				
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	評価を通しての現状確認、課題を浮き上がらせ改善できるよう努めている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標達成に向けた取り組みを行うが、進捗状況の確認、達成状況などを確認しきれていない。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	現状として出来ていない。今後の課題としたい。	△	△	×	外部評価結果を運営推進会議で報告しているが、モニターしてもらった取り組みは行っていない。 今後は、評価を活かす取り組みに期待したい。
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	成果についての話し合いや確認が出来ていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	様々な災害にそなえてマニュアルを作成している。				地域防災訓練には、職員3名が参加した。 いざという時を想定して、地域や近隣の人と一緒に合同の避難訓練を行うなどの取り組みもすすめてはどうか。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	夜間想定等の訓練は今までに行ってきたが、様々な時間帯での訓練はできていない。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	業者による設備点検を定期的に実施。保管物の確認も適宜行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	合同訓練などは実施できていない。地域の区長様からの台風での河川の増水に対する注意喚起の連絡や状況確認をして頂くなどの支援を頂いている。	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の防災訓練に可能な限り参加するよう努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域会で情報を発信したり、認知症についての勉強会を行ったりとしてはいるが、地域に向けての発信という意味では不足していると感じており課題である。				相談支援の取り組みは行っていない。 地域の人とかかわる機会を捉えて、相談支援にも取り組んでどうか。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の方から相談の電話や来所があることがあり、その相談に対してできるだけの協力や助言を行っている。		△	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	お祭りの際の集合場所や休憩場所としての活用をして頂いている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	以前はヘルパーの研修を受け入れていた。現在はボランティアの受け入れを積極的に行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域会に参加し、他事業所との連携や情報交換をおこないながら、事業所として可能な範囲協働している。			○	